

～奇跡・軌跡・キセキ～

八女支部 堤 一輝

私が八女土木事務所の道路課国道建設係に配属されて早いもので1年が過ぎようとしている。

～1年前～私は筑後自動車学校を卒業したての、下手くそワッペンを誇らしげに前後に見せびらかし、地元大手のベスト電器にいた。なぜならば、福岡県に「奇跡」的に受かったからだ。準備の良い私は、1人暮らしをするために買い物に出たのだ。なぜ一人暮らしかというと、高校の先生方の裏情報によれば、筑豊トライアングルと呼ばれる、田川、直方、飯塚の土木事務所には2人採用されるらしく、大卒と高卒が共に配属されるだろうという見解だったので、遠い遠い筑豊の地に行く決意をしていたのであった。またまた準備の良い私（他にすることが無かった）は3つの土木事務所の場所をヤホーじゃなく、Googleで検索し、付近を色々探していたが、周りにはめばしいものは見当たらず、がっかりした。はっきりいって上の三つには行きたく無かったのだが、生まれ育った土地、見慣れた風景に別れを告げ、「私の知らない新世界」に配属される為、知事からの辞令を頂戴しに Greeen の「遙か」を聞きながら出発した。さーよーならー♪

時は少し流れ4月2日 出勤初日「動け、動け、動け、動け、動いてよ！！今動かないでいつ動くんだよー！ だから 動いてYOー」とエヴ○ンゲリオンの名ゼリフを言いながら私は渋滞の最中にいた。通勤路での朝の渋滞を知らなかった為だ。ご存じ準備の良い私は、前日よりルートの時間についても調べ、頭にインプットしたつもりであった。インプットデータには、当然渋滞などという予測不能なデータは盛り込まれることは無かった。大事な時に準備の良さが裏目にでた瞬間だった。それでも家を少し余裕もって出たのに、もっと余裕を持つべきだったと遅い後悔をしていた。初日から遅刻は是が非でも避けたかった。車を飛ばし事務所の駐車場に駐車したのが8時29分。自動ATフィールドをくぐり抜け、ボロボロの張り紙に「3階土木事務所」とあり、それを頼りにダッシュで階段を駆け上り始業チャイムと同時に「おはようございます。」

初めて見る土木事務所の中。見知らぬ天井。滴る汗。ん？なんかここは通路っぽくないかな？と思った矢先だった。「おーい新採君。ここは裏口だから向こうに回らんね」そこは現業さん達がよく利用する出入り口だ、最初に僕を迎えてくれたのは現業さんたちの笑い声だった。

正式な？入り口から入ると明らかに上司の風格漂う技術副所長に案内され所長室に行き、それから職員全員に紹介された。緊張と期待によりカタコトの日本語で「ツツミデス。ヨロシク・・・」なんとか初めのあいさつをこなした。実はなんと4月1日の辞令交付式で、おもいつき肩すかしを食らい、八女土木に配属されてしまったのだ。筑豊に飛び込む気満タンの私は啞然としていて、やたらテンションの高いユース部長が何か語っていた

事しか記憶に残っていなかったのだ。

「本当に八女なのか」という現実を受け入れきれない気持ちと「初日から遅刻しそうだ」という気持ちで心臓は高鳴っていた。案内されるがままついて行くと「ここが君の係だよ」と一つの島に連れて行かれた。そして私の担当指導員という人を紹介された。通り過ぎる職員の方々が「指導員の奴はさばけるからな」と聞かされた。どうやら只者じゃないらしい。身構えて警戒していると、初仕事として机の清掃というどうでもいい大役を与えたのが、机の正面、側面、僕イケメンの K 一郎さんという人だった。彼は私が同じ高校出身だという事と、自分の机が綺麗になると満足したようで、どこかへ消えていった。その間一言も発せ無かった指導員を横目でチラ見し、これからの社会人生活が不安でしうがなかったのを覚えている。

1 週間もすると引き継ぎを終えた豪傑達が係に集結していた。この人達が国道建設系のメンバーか！この係のボスは身長こそ低いが背中ではでかく見える！昼休みは冬でも半袖で保健所のレディ達と卓球をし、仕事の時は口癖である「しーきらん」を連発してはドンドン仕事をしている。背中がでかく見えるのは、そんなメリハリの効いたところからきているのだろうと最近思うようになった。

そんなメンバーの中、いつの間にか仕事に行くのが楽しみになっていた。何故かと言うと、指導員こと T 渡さんと日向神ダム付近の道路改良の現場まで行くのがすごく楽しかったからだ。T 渡さんとは日向神ダムまでの片道 1 時間、公用車「軽」の中で様々なことを語り教わった。社会人としての心構え、仕事の楽しさ、前歯を折られた話や、違う歯を研修所で折られた話、開脚前転の仕方など、T 渡さんの話は尽きることが無く、不安で仕方のない僕の 18 もある心の特殊装甲板も自然と溶けていった。それだけに留まらず、U!N!K! という男の三種の神器というのを教わった。とても深い言葉だった。深すぎてだいたい眠りにつく僕だった。今では三種の神器は僕のバイブルになっている。そうやって朝も昼も夜もお世話になっていたのも、私は T 渡さんの事を師匠と呼ぶようになっていた。

師匠は遊びも仕事も一生懸命で、ゴルフもちゃっかり優勝してた。おまけに必要ななくなったおもちゃ（スノボー）は私にくれた。ムーンウォークもできた。スケートに行った時は、未来の浅田真央を目指す小学生達に触発され、少しメタボな体に鞭打って、胸の前に手をクロスさせ、銀盤の氷の上を回転し氷上の妖精と化していた。

師匠は何でもデキタ と思う、世間知らずの僕。

師匠に認めてもらえるように色々頑張った。まずは野球だ。配属されて 1 日目、まだパリパリスーツに新品革靴だった幼気な私に本気のキャッチボールを強要されたことは忘れない。それから毎日昼休み、先輩方は何を血迷ったのか若いから伸びるという訳の分からない事を言って、ピッチャーにさせるということになり、特訓が始まってしまった。そして迎えたデビュー戦の日、前日シーホークであった組合の集まりに参加していた私は、その雰囲気にて二日酔いをしていたので、とてもじゃないが先発という大役を遂行できる余力は残って無かった。投げたく無いとグラグラする頭でグズグズ言っていた私に K 一郎さん

がファーストから優しい野次を飛ばしていた。そのおかげか実力か、プレミアの覚醒モードに突入し、完璧なピッチングで劇的デビューを飾った。その時は正直二日酔いでかすかに見える、三代前の A 総理のようなキャッチャーの先輩の眉毛しか見えなかった。

すぐ調子に乗った私は、「俺の防御率 1 点台ですよ。」と K 一郎さんに自慢したところ「防御率なんて出さんでんよか！」と一喝された。だがその意味が分からず、次のいくさに臨んだが、フォアボールの連発で、暴走モードに突入した。試合が白ける始末。次の試合も投げたが、フォアボール以外・・・記憶が無かった。狂牛病になったかの様な震える足、マウンドの上に立つと私は、ミジンコの様に小さく成りたかったのだが、僕のボールはミジンコすら仕留めることは出来なくなっていた。ミジンコにすら成れず、埃かぶった理科の教科書を引っ張り出し微生物を調べ、俺は三日月藻（つつ みかずき 藻）だと気付いた時には、シーホークの奇跡から対他事務所戦全敗という負け犬街道まっしぐら。もう辞めよ。防御率？そんなの 9.9.9・・・K 一郎さんが正しかった・・・ 月日は流れ、そんな独り言を呟いた時に、部長杯という野球の今年最後の試合が巡ってきた。今までは、ピッチャーをさせて頂いていたが、この試合は今のメンバーでの最後の試合だった為、野球経験 1 年目の私に与えられたポジションは声出し（ベンチ）だった。その頃マウンド恐怖症になっていた私には嬉しかった。途中からショートで出たものの試合で初めてのポジションで、ビビりな所も手伝って心臓は、三日月藻のようになっていた。動揺するの束の間、いきなりボールが飛んできた。ビビって足が動かなかった。「動け、う・・・(以下略)」

ボールは私の股の下を「こんにちは」してセンターまで届いていた。捨て猫みたいな僕にポジションや居場所なんてものはどこにもなかった。

試合結果は優勝だった。キセキ？そう！私は閃いたのだ。私が投げなければ勝てるということ、そして私は泣いた。3 日間程まくらを濡らした。初勝利&優勝できたからなのか、自分のケツの青さに気付いたくやしきからなのかは迷宮入りしてしまった・・・それから投げることを辞めた。投げることに未練を残しつつ、今度は何かに参加することに生き甲斐をもった私は、狂牛病のように狂ったまま、ひたすら試合の後の飲み会の余興に徹するようになっていた。

余興では、事務所のみんなが私に期待している。みんなを喜ばせるため、ふと気付くとセーラー服やチャイナ服、その他 etc、何でもやっていた。最初は、「俺っていったい・・・」と自問自答を繰り返し、嫌々だったが、師匠から「おまえの存在価値を見せてやれ」とそんな激を浴びせられながら、矢島美容室を踊ることになった。まだお酒が御法度の私は、酔っぱらって踊れなくなる先輩を横目に、しらふで踊り続けた。やっていると、喜んでくれるみんなの顔がいつの間にか嬉しくなった。ちょっとだけ認めてもらえたような気がしてうれしかった。これもまた軌跡。



◎優勝した時の写真です！！

※余興で輝く僕…

最後に、高卒で入って、師匠と支承の違いも分からない僕を公私共々指導して頂いた、係の皆様、先輩方、所長、両副所長にこの場を借りてお礼を言いたいと思います。

本当にありがとうございます。まだまだ福岡県の土木技術者として半人前であり軌跡と呼ぶには足りない人生ですが、いつか事務所の皆さんのように、そして何かを造り、残していく土木の楽しさを教えてくれた師匠のように、八女県土整備事務所にいた「軌跡」を管内図に、地域の皆さんの心に残していきたいと思います。

そのためにもまだまだ半人前の僕ですが、これからもご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

※八女県土整備事務所 道路課